

議論白熱

三校合同課題研究発表会開催

◇期 日:令和6年12月22日(日)

◇場 所:富山国際会議場

◇参加者:富山・高岡・富山中部高校探究科学科1・2年生、
各校教職員、課題研究指導関係者



令和6年度三校合同課題研究発表会が開催された。三校の探究科学科の2年生約240名が、指導してくださった先生方、多くの県内高校生や来場した保護者や中学生に、ポスターセッション形式でこれまでの研究成果を発表した。

開会式では、三校の代表班による発表が行われた。高岡高校情報班は、加速度センサを使用し、集中力を可視化するアプリケーションの作成を目指し、機械が搭載された眼鏡、自作ゲーム、機械学習などを用いて勉強中の姿勢を分析した。富山高校英語班は、中学校の英語教育は中学校学習指導要領を満たしているのかをアメリカ映画の台本で検証し、英語で発表した。富山中部高校化学班は、拡散しない指示薬の実用化について分子量や生成される膜の構造について仮説を立て検証し、発表した。どの班の発表も説得力のある大変興味深いものだった。質疑応答も行われ、考えを深めることができた。



ポスターセッションでは、事前に準備したポスターを用いて研究内容を参観者に説明した。発表は2つに分かれたグループの一方が30分のコアタイムで発表し、他方のグループと参観者が関心のあるテーマの発表を聴いた。多様なテーマが選定され、地域に根差したもの、現代の傾向にあったもの、開発途上の分野のものなどがあり興味をかきたてられた。また、AIを使用していた班が多くみられたことも印象に残った。1回の発表は約10分で行われ、その後の質疑応答では活発な意見交換がおこなわれていた。高い目標を持ち、努力する同世代の仲間が大勢いることに気づかされ、刺激になると同時に励まされた。忙しい中でも時間を作り、仲間と協力し、主体的に考え、つらくとも最後までやり遂げるという経験はこれからの人生の糧となると思う。

閉会式では、各校の代表者が研究を通して得られたこと、反省、今後の展望、そして研究ができる環境への感謝を述べた。最後に富山大学の杉浦幸之助教授、宮城信准教授に講評を頂いた。直観に合わない結果が新しい切り口になることがあるということ、AIの台頭、コロナ後の今、研究は「選ぶ研究」から「創る研究」へと変わっていき、新しいものを創る時代になっていくということを知った。本校の研究班は今回得た助言をもとに今後もさらに研究を進め、完成度を高めていくことになる。

今回の三校合同課題研究発表会では、参加した生徒それぞれが研究を通して人として成長し、新たな学びを得ることができたと思う。探究することの楽しさを持ち続け、さらなる高みを目指していきたい。